

業務用プロジェクタの発展

Evolution of Image Projectors for Business Use

甲斐 実
KAI Minoru

最近のビジネスには、プレゼンテーションやデモンストレーションのために、映像や情報データを拡大して映し出すプロジェクタが不可欠のものになっています。プロジェクタには、リア式やフロント式の大画面から携帯用まで、幅広い商品ジャンルがあります。これらはいずれも、特に最近、デジタル技術の進展に乗り高性能・高機能化が促進されており、ますます機器ビジネスとして拡大が期待されると同時に、ユーザーのサイドから見ても、より良いサービスが受けられ好ましい傾向と言えます。

例えば、会議でのプレゼンテーションは、データプロジェクタの出現のお陰でたいへん便利になりました。質の高い内容を容易に準備することができます。ちょっと前まではOHP用透明原稿を用意しなければならず、カラー付きの場合は手作業による切り張り仕事も必要な時代もありましたが、現在では、パソコン上で容易に原稿作成が可能であり、まさに隔世の感があります。

ディスプレイ上に表示される画像やデータの画質も、VGA(640×480画素)から始まり、最近ではSXGA(1,280×1,024画素)が主流になってきました。デジタル高精細放送が本格化するころには、SXGAが当然のごとくあたりまえになっていることでしょう。また、これらの機器は、情報ネットワークにつながれ、ネットワークの表示を引き受ける顔として大切な役割を果たします。ネットワークとの親和性がますます重要になってきます。

このようなニーズの進化に対応して、表示用デバイス、信号処理技術など固有の技術の開発が精力的に進められてきています。この特集では、当社のこれらの分野における技術成果と今後の方向について紹介いたします。